

2022年12月7日

各位

ENEOS株式会社

## ENEOS野球部の5名が「2022年度社会人野球表彰選手」に選出！

ENEOS野球部（監督：大久保 秀昭、以下「当部」）は、「公益財団法人日本野球連盟（JABA）が発表する2022年度社会人野球表彰において、当部所属の柏原史陽（ベストナイン投手部門、最優秀防御率賞）、柏木秀文（ベストナイン捕手部門）、川口凌（ベストナイン三塁手部門）、度会隆輝（ベストナイン外野手部門・最多本塁打賞・最多打点賞）、山崎錬（ベストナイン指名打者部門）の5名が各賞に選出されましたので、お知らせいたします。

ベストナインは、都市対抗野球大会、日本選手権大会、JABA主要11大会を対象に、年間を通じて最も活躍した選手をポジション別に選出し、個人記録表彰は、カテゴリー別に最も優秀な成績を収めた選手を表彰します。

今回受賞した選手は、第93回都市対抗野球大会、第47回日本選手権大会、第74回JABA九州大会などでの活躍が大きく評価されました。

ベストナイン（投手部門）・最優秀防御率賞（防御率：0.74）		
	氏名（背番号）	柏原 史陽（18）
	ポジション	投手
	身長・体重	175cm・81kg
	生年月日	1993年5月23日
	投打	右・右
	出身校	桐光学園高校 — 同志社大学
<b>【コメント】</b> ベストナイン、最優秀防御率賞に選出され、非常に嬉しく思っています。 2つの賞を獲得できたのも、大久保監督のご指導はじめ、多くの皆さまに支えていただいたおかげです。また大事な試合で投げさせていただき、チームの勝利に貢献できた結果が評価されたと思っています。 今後も感謝の気持ちを忘れることなく、チームの勝利のために投げ続けたいと思います。		

ベストナイン（捕手部門）

	氏名（背番号）	柏木 秀文（33）
	ポジション	捕手
	身長・体重	178cm・88kg
	生年月日	1989年9月27日
	投打	右・右
	出身校	阿波高校 — 城西国際大学

【コメント】

社会人ベストナインの獲得が目標の一つでしたので、達成できたことを非常に嬉しく思います。これも私自身だけの力では到底成し遂げられなかったことと感じています。社員、関係会社の皆さまの支え・応援があり、また、チームメイトにも恵まれたと思っています。来年以降も一人でも多くの選手が獲得できるよう、野球部一同がんばって参りますので引き続きよろしくお願いたします。

ベストナイン（三塁手部門）

	氏名（背番号）	川口 凌（0）
	ポジション	内野手
	身長・体重	168cm・75kg
	生年月日	1996年10月1日
	投打	右・左
	出身校	横浜高校 — 法政大学

【コメント】

この度は2022年、三塁手部門のベストナインに選出いただきありがとうございます。個人的に目標にしていたので非常に嬉しく思います。ベストナインを獲得することができたのも私だけの力ではなく、チームの仲間と一丸となって戦い、各大会で勝ち進むことができたからこそだと思います。来年も都市対抗連覇を目指してチームの勝利のために全力でプレーして、またベストナインを獲得できるようにがんばりたいと思います

ベストナイン（外野手部門）・最多本塁打賞（本塁打：7本）・最多打点賞（打点：21）

	氏名（背番号）	度会 隆輝（25）
	ポジション	外野手
	身長・体重	183cm・83kg
	生年月日	2002年10月4日
	投打	右・左
	出身校	横浜高校

【コメント】

今回ベストナイン（外野手部門）、最多本塁打賞および最多打点賞を獲得できたことを心より嬉しく思っています！この賞を獲得できたのも、監督、コーチをはじめ沢山の皆さまに支えていただいたおかげです。来年もチームの勝利に貢献出来るよう全力で頑張っていきたいと思います。

ベストナイン（指名打者部門）

	氏名（背番号）	山崎 錬（1）
	ポジション	内野手
	身長・体重	176cm・83kg
	生年月日	1990年12月13日
	投打	右・左
	出身校	慶応義塾高校 — 慶応義塾大学

【コメント】

入社以来目標としていた社会人ベストナインを受賞することができ、非常に嬉しく思います。このような名誉ある賞を受賞できたのも、大久保監督はじめ、たくさんの皆さまのご指導のおかげです。感謝の気持ちを忘れずに、都市対抗連覇に向けて、今後もひたむきに練習に励んでいきたいと思っております。

【大久保監督コメント】

日頃よりENEOS野球部へ温かいご声援を賜り、誠にありがとうございます。この度、2022年度の社会人野球ベストナインが発表され、ENEOS野球部より選手5名が選出されました。

5名もの選手が選出されたことは、チームとして年間を通しての安定した戦いぶりが評価されてのことだと思っております。山崎、柏木といった10年目を超えるベテランが精神的支柱として活躍してくれ、柏原は、エースとしてパワフルにタフネスに大車輪の働きをしてくれました。主将3年目の川口は強い覚悟を持ってチームを鼓舞し続け、高卒2年目の度会は持ち味のバッティングで都市対抗優勝の原動力となりました。5名それぞれが苦難や壁を乗り越えて、チームが勝つために自分の持てる力を存分に発揮し、躍動してくれたことは監督として誇りに思います。この結果に満足することなく、来シーズン以降も安定した成績を残せるよう部員一人一人が高い意識を持って取り組んでまいります。「常勝ENEOS」へ向かって、日々精進してまいりますので、引き続きENEOS野球部をよろしく願いいたします。

以上